●〈症例〉

F₃食道静脈瘤合併食道表在癌の1例羽生 健¹⁾ 大森 泰²⁾ 横山 顕 玉井拙夫³⁾¹⁾川崎市立川崎病院／外科, ²⁾国立アルコール症センター久里浜病院／内科, ³⁾神奈川県立がんセンター／消化器科〔Key Words〕F₃食道静脈瘤, 食道表在癌, EMR

はじめに

内視鏡治療を行ったF₃食道静脈瘤合併食道癌の1例を経験したので報告する。

症 例

患者：54歳，男性。

主訴：自覚症状なし。

既往歴：特記事項無し。

飲酒・喫煙歴：日本酒 3合/日，たばこ 30本/日 (pack year 51)。

現病歴：1999年7月6日アルコール依存症にて国立久里浜病院入院。内視鏡検査で食道静脈瘤と食道表在癌を発見され，治療目的にて川崎市立川崎病院外科転院となった。

入院時検査所見：血小板・PT・Ch-Eの低下，NH₃・ICGの上昇を認め，肝炎ウイルス陰性であること

からアルコール性肝硬変と診断された。CT，超音波検査では，明らかな食道癌転移を認めない (Table 1)。

上部消化管内視鏡所見：切歯列25cmからEGJにかけて食道静脈瘤；F₃ Cb Rc (+) Lim Lg (-) E (-) を認め，33～35cm後壁1/2周に発赤した浅い陥凹が見られヨード染色では静脈瘤上に広がる不染帯となった。生検は扁平上皮癌であり，深達度m1の0-IIc+IIb型食道表在癌と診断した (Color 1-a, b)。

治療経過：肝硬変・食道静脈瘤を伴うが深達度m1と推定されたため，まず食道静脈瘤に内視鏡的食道静脈瘤硬化療法 (EIS) と内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) を施行した (1999. 9. 20 EIS；polidocanol 13ml+ethanol 2 ml静脈内投与，EVL 4カ所，9. 28 EIS；polidocanol 2 ml粘膜内投与)。食道静脈瘤が縮小消失後0-IIc+IIb病変に対し内視鏡的粘膜切除術 (EMR) を試みたが (1999. 10. 19)，局注による病変挙上が得られずEMRを断念した (Color 2)。このため根治的放射線治療を行い (1999. 10. 28-12. 15, 66 Gy) 病変は消失となった。外来経過観察中，局所再燃を認め (Color 3)，CDDP (30mg/day 1-4) + 5 FU (1,300mg/day 1-5) による化学療法を4コース施行した (2000. 6. 28-10. 14)。病変は内視鏡上CRとなったが，3カ月後再再燃となり (Color 4)，神奈川県立がんセンター消化器科にてporfimer sodium 120mg静脈内投与，48時間後YAG-OPO Laser 80J/cm²照射による光線力学的治療 (PDT) を施行し，病変は消失し生検も癌陰性となった (2001. 3. 14)。この後，現在 (2003. 6. 30) まで再発再燃無く生存中である。

Table 1 Laboratory data on admission.

〈血算〉		〈生化学〉			
WBC	4310 /mm ³	TP	6.5 g/dl	Ch-E	151 IU/l
RBC	352 × 10 ⁴ /mm ³	Alb	3.3 g/dl	Tcho	108 mg/dl
Hb	11.5 g/dl	T-Bil	0.9 mg/dl	BUN	14 mg/dl
Hct	34.1 %	D-Bil	0.2 mg/dl	Cr	0.7 mg/dl
Plt	7.9 × 10 ⁴ /mm ³	GOT	18 IU/l	Na	139 mEq/l
〈凝固系〉		GPT	36 IU/l	K	4.0 mEq/l
PT	55.6 %	ALP	370 IU/l	Cl	108 mEq/l
APTT	31.9 sec	γ-GTP	151 IU/l	NH3	102 mg/dl
〈腫瘍マーカー〉					
CEA	3.8 ng/ml				
SCC	1.3 ng/ml	ICG	36 %	Ccr	138 l/day
〈画像診断〉					
頸胸腹部CT、Echoにて明らかな転移を認めず					

Kawasaki Municipal Hosp., Dep of Gastroentero & Surg / National Institute on Alcoholism, Kurihama National Hospital

考 察

m1-m2の食道粘膜癌に対する第一選択治療はEMRであり、食道静脈瘤上に粘膜癌が存在した場合には食道静脈瘤治療を行い次にEMRを行うべきとされる。しかし静脈瘤合併食道表在癌に対する内視鏡治療の報告はほとんど無く¹⁾、確立された治療方法は明らかではない。食道静脈瘤治療にはEISとEVLのどちらが良いか、静脈瘤治療とEMRの時間間隔はどれくらいが良いか等の問題点には明確な解答が得られていない。我々の経験ではF₁₋₂の静脈瘤では癌病巣から最低2 cm以上肛門側に離れてEVLを密にかけ、3～4日後にEMRを行う方法が良いと考えている。しかし本例のようなF₃静脈瘤例では、食道壁外からの静脈瘤への穿通枝がある場合にはEVLのみでは血流が完全に遮断できない可能性があると思われる。このような例では静脈瘤治療にはEISが最適と思われるEISによる治療を行ったが、本例ではEISによる粘膜の線維化・硬化が逆にEMRに不利な条件を形成しEMRを不可能にしたと推測された。また、EISからEMRに至る時間間隔も重要と思われる、間隔を短くすることも考慮すべきと思われた。静脈内投与によるEISをEMR前治療とする場合の治療方法は今後さらに症例を蓄積し検討すべきと考えている。

食道表在癌に対するPDTは適応が広く低侵襲である。1998年から2003年までの報告例集計²⁻⁴⁾では深達度smまでの食道表在癌50症例中の44例(88%)にCRが得られ、高い奏率が示された。EMRが困難な合併症を持つ食道表在癌に対しては有用な治療法と考えられる。しかしながら、光線過敏による遮光と長期入院が必要であり、また組織診断ができないため食道壁深部の癌遺残診断が困難であるという短所もあり、今後更なる検討が必要と思われる。

おわりに

F₃食道静脈瘤合併食道表在癌を経験した。本症例で

はEISによる静脈瘤治療はEMRを不可能とし、EMR前治療としてのEISの有用性は確認できなかった。さらなる症例蓄積により食道静脈瘤合併食道表在癌に対する治療方法の確立が必要であると考えられた。

文 献

- 1) 山田義也, 榊 信廣, 小澤 広: 食道静脈瘤合併早期食道癌に対する粘膜切除治療の検討. *Gastroenterol Endosc*, 42: 1618, 2000.
- 2) 樽原啓之, 飯石浩康: 表在食道癌に対するPDTとEMRの評価. *Gastroenterol Endosc*, 40: 1540, 1998.
- 3) 末吉 晋, 田中寿明, 藤井輝彦, 他: 食道表在癌に対するPDTの検討. *日癌治療会誌*, 36: 778, 2001.
- 4) 金子 猛, 今野弘之, 田中達郎: 食道癌に対して行ったPDTの2例. *日消外会誌*, 34-32. 174, 2001.

A case of simultaneous superficial carcinoma on F₃ grade varix in esophagus

Ken Hanyu¹⁾ Tai Omori²⁾
Akira Yokoyama Setsuo Tamai³⁾

A 54-year old man underwent gastro-intestinal endoscopy, which detected carcinoma and varices (F₃ grade) in his esophagus simultaneously. Endoscopic sclerotherapy and band ligation were carried out in the treatment for esophageal varices initially. Since we could not achieve subsequent endoscopic mucosal resection at carcinoma because of mucosal changes after varices treatment, other therapy, such as radiation and chemotherapy, were employed. However, twice recurrences of esophageal cancer within seven months were observed, and we tried a photo dynamic therapy, resulting in two years recurrence free so far. The treatment of esophageal cancer with F₃ grade varices should be further discussed.

¹⁾Dept. of Surg, Kawasaki Municipal Hospital, ²⁾Dept. of Internal Medicine, National Institute on Alcoholism, Kurihama National Hospital, ³⁾Dept. of Gastroenterology, Kanagawa Cancer Center Hospital.

〈カラーは2頁に掲載〉